



■ 今月の PICK UP

患者相談支援センター 移転リニューアル！

■ REPORT

患者相談支援センター移転リニューアル！
日本外科学会 優秀論文賞に採択
熊本県看護協会表彰を受けて
教えて！片淵Dr.《Vol.12》
出前講座「エピペン研修会」in 蓬萊保育園

出前講座 救急救命講習 in 人吉西小学校
JCHO認定キャリアアドバイザーの活動案内
第57回熊本県医学検査学会
人吉医療センター災害実動訓練&フェスティバルのご案内

患者相談支援センター移転リニューアル！

これまで患者さんの相談窓口として〈1階〉受付にありました患者相談支援センターを、
〈2階〉旧図書室「もちの樹」へ移転しました。

社会福祉士、
看護師、薬剤師、
リハビリスタッフ等、
必要に応じて
多職種連携で対応します。



お気軽に
ご相談ください



**患者相談支援センターとは、患者さんやご家族が安心して治療を受けられるよう
 お手伝いをさせていただく相談窓口です。主な内容をご紹介します。**

がん相談支援センター

がん相談支援センターでは、患者さんやご家族、地域の方々からの、がんに関する様々な相談・心の悩みをお受けする「がんの相談窓口」です。がんを抱えながら、その人らしい生活、治療の選択ができるようお手伝いをさせていただきます。

総合相談センター

総合相談センターでは、受診や入院中の医療や治療費に関する相談、治療上の医療安全等に関する相談、介護に関する相談などについてお伺いします。

入退院サポートセンター

入退院サポートセンターでは、入院予定の患者さんやご家族へ入院に関する説明、退院後の生活を見据えた助言や必要に応じて他職種との連絡調整を行います。

どんな小さなことでも、ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。匿名でのご相談もお受けします。ご相談いただいた内容が、あなたの同意なしに他者に知られることはありません。どうぞ安心してご相談ください。(相談は無料)

受付日時 月曜～金曜日 8:30～17:15 (土日祝日、年末年始は除く)



※ご愛顧戴きました2階図書室「もちの樹」は、令和7年6月26日をもって閉館致しました。
 本や雑誌などは各科外来待合所に配置致しますので、待ち時間などにご利用ください。

日本外科学会 優秀論文賞に採択されました

この度、日本外科学会のオフィシャルジャーナルであるSurgical case report誌に、筆頭著者として発表した論文が、優秀論文賞に採択されました。先日、日本外科学会学術総会で行われた表彰式に参加致しました。優秀論文賞は、全外科領域から9編が表彰されました。論文のタイトルは、「Pathologic complete response after laparoscopic surgery following treatment with nivolumab and ipilimumab for anticancer drug-resistant MSI-high descending colon cancer: a case report and literature review」です。広範囲に横隔膜、腹壁に浸潤した根治切除困難な下行結腸癌の治療に関する論文です。標準的な抗癌剤であるFOLFIRI療法（細胞障害性抗癌剤）を行いました。癌は急速に増大し従来の治療法では治癒困難な状態でした。新規薬剤である免疫チェック

ポイント阻害剤で治療を継続したところ、腫瘍は著明に縮小し、腹腔鏡手術で完全に切除することができました。切除検体に癌の遺残はなく完治したと考えられます。従来の治療法では決して治ることない癌を、根



治できたことに、大きなインパクトがあったと考えます。論文では、抗癌剤治療の経過、腹腔鏡手術の方法、近年の治療の動向に関して詳細に記載しています。

大腸癌のみでなく、胃癌領域においても新規薬剤の開発は目覚ましく、当院においても最新の治療法で多くの癌患者様を治療しています。日本胃癌学会は、胃癌治療の集約化を目指し、施設認定制度を設立しました。当院は手術件数、抗癌剤療法件数、専門医を含めすべての施設基準を満たしており、本年度、熊本県では日赤や済生会など8施設しかない「日本胃癌学会認定施設」に認定されました。

私個人としても、大腸癌腹腔鏡手術のビデオ審査に合格し日本内視鏡外科学会技術認定医を取得して4年目を迎え資格更新の時期となりました。また、学会活動、論文報告が評価され日本消化器外科学会評議員を委嘱され、技術、知識ともに熟練に達した医療を提供できると自負しています。

癌になった夢を見たことはありませんか。癌治療を専門としている私でさえ、目の前が真っ暗になってしまいます。そんな悪夢から、目覚めることができればどんなに幸せでしょうか。私たちは、最高の施設で優秀なスタッフと共に、最高の技術と知識で、癌と闘っていくことを生きがいにしています。



熊本県看護協会表彰を受けて



この度、光栄にも熊本県看護協会会長より表彰状を頂くことができました。平成元年4月に前身の健康保険人吉総合病院へ入職、以来こんなにまで看護師として働き続けることができましたのも、未熟な私を導き励ましていただいた皆様がいてくださった賜物と心より感謝申し上げます。

定年退職まであと数年、病院の発展に少しでも寄与できるよう努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

看護部長 告吉 ゆかり





教えて！片渕Dr.

Dr.KATABUCHI SPECIAL COLUMN

Vol.12

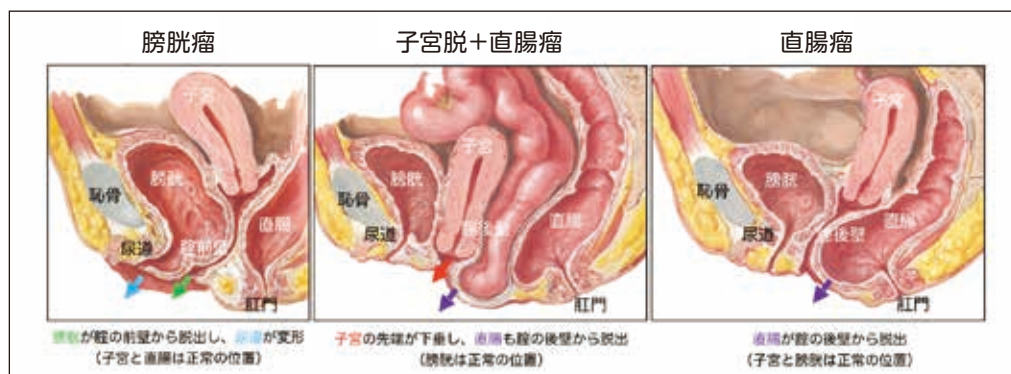
ピンポン球みたいなものが出てくる… それって子宮脱では？

産婦人科 片渕 秀隆

「お風呂で洗っている時やトイレの時に、ピンポン球みたいな丸いものが出てきます」ということで産婦人科を受診される女性の多くは、子宮の下部分(子宮腔部)や腔の一部が腔の外まで下がってきている状態になっています。医学的には**骨盤臓器脱**という主に中高年女性の病気ですが、妊娠中や分娩後にこの状態になる方もあります。女性が立ったときの下腹部(骨盤の臓器)をみると、前から順に、恥骨、膀胱と尿道、子宮と腔、その後ろにS状結腸・直腸があります。分娩の時に赤ちゃんの通り道になる腔は、長さが6～10cmで、その前には膀胱・尿道、後ろには直腸が隣り合っています。この骨盤内の臓器は下から支える骨がないので、靱帯や骨盤底の筋肉などによって互いにしっかりと支え合っています。この支えが緩むと、骨盤内の臓器が下がり腔口を出口として外に脱出し、骨盤臓器脱と呼ばれる状態になります。鼠径ヘルニア(脱腸)、臍ヘルニア(でべそ)、椎間板ヘルニアなどに似た一種のヘルニアです。

腔口から出てくる臓器とその程度によって、**子宮下垂・子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤**の3つに大きく分けられ、しばしばこのいくつかが一緒にみられます。自覚症状のない場合も少なくありませんが、「何か出ている」「何か下がってくる」という異物感以外に、膀胱瘤に伴う頻尿、尿失禁、排尿困難、直腸瘤に伴う排便困難があります。寝ているときや朝は問題ないが夕方以降になると症状が出てくるという方が多く、症状が強くなると、出ている子宮を自分の手で押し上げて排尿・排便をしなければならなかったり、脱出した子宮腔部が下着などと擦れて出血したり、脱出した子宮が邪魔になり歩行が困難になったりする場合があります。直接の原因としては、加齢や出産によって靱帯や筋肉などが緩むことが一番に挙げられます。間接的な原因として、多産や難産の経験、長期にわたる下半身に力のはいる重労働、喘息などによる頻回の咳や慢性の便秘で腹圧をかけ過ぎることや肥満などがあります。

程度が軽いときには、生活習慣の改善や骨盤底筋体操を行います。重い物を持ち上げる際の姿勢に注意し、便秘の改善を図りましょう。体操の目的は骨盤底の筋力増強で、肛門を意識して締める運動は、脱に伴う腹圧性の尿失禁に有効です。下がっている子宮を押し上げて腔内に納めるためにリング pessary という輪を腔内に入れることで症状を改善することはできますが、入れたままで放置すると腔壁が傷つき細菌感染をおこし出血や悪臭を伴う帯下(おりもの)が増えるため、定期的な受診が必要です。手術によっても症状を解消し普通の生活を送ることができるようになります。腔を通して子宮を摘出し、腔壁を補強する方法が基本です。高齢化に伴い骨盤臓器脱の手術は年々増加傾向にあります。家族にも相談できず、受診をためらう方が沢山いらっしゃいます。気になる症状があれば、まずは産婦人科や泌尿器科の専門医に相談ください。



『ネッター医学図譜 第2版 2011年』より引用

2025
7/1

出前講座「エピペン研修会」 in 蓬萊保育園

エピペンは、アレルギー症状の中で最も重篤なアナフィラキシーショックの症状が出たときに使う自己注射です。処方されたエピペンは自己注射薬なので、基本的には患者さんが自分で注射をしますが、小さな子どもの場合は、まわりにいる大人が使うことになり、保育士さんもその中のひとりということで、今回蓬萊保育園で研修を行いました。

受講後に感想をいただきました

本日は、大変お忙しい中、アナフィラキシーショックおよびエピペンの使い方についてご講演いただき誠にありがとうございます。先生の丁寧で分かりやすい説明のおかげで、アナフィラキシーショックの症状や緊急時のエピペンの正しい使用方法について、深く理解することができました。特に、練習用のエピペンを実際に使わせていただき、打つ練習までご指導いただいたことは大変貴重な経験となりました。これまで漠然としていたエピペンの使用が、実際に手に取り打つ練習をすることで、これまで抱いていた不安が大きく軽減され、非常に有意義な学びの機会となりましたことを、心より感謝申し上げます。今後とも、よろしくお願い致します。

蓬萊保育園 園長 紫安 敬道



小児科の谷口医師より講話



実際にエピペンを手に取りレクチャー

2025
5/28

出前講座 救急救命講習 in 人吉西小学校



人吉西小学校で救急救命講習を行いました。昨年度に引き続き、今年度もプール開始前のこの時期に小学校の職員を対象に「心肺蘇生法、AED講習、校内を想定した緊急時対応について」講習を実施しました。当院から下



マネキンを用いて実際に心肺蘇生法を体験

川医師をはじめ3名の看護師で小学校に出向き、人形やAEDを使用し、心肺蘇生法・AED講習を行いました。皆様真剣な面持ちで講習に取り組んでいただきました。



下川医師による講話

当院ではBLS講習をはじめ各種の出前講座を行っております。ご依頼・ご要望等ございましたら下記までご連絡ください。

お問い合わせ

人吉医療センター医療福祉連携室
☎0966-22-2191 (内線 240)

JCHO 認定キャリアアドバイザーの活動案内

JCHOナースが生き生きと活躍し継続的に働き続けられるよう、多様な看護人材の確保・活躍を図ると同時に、キャリア支援・開発に関する課題に対して管理者とともに検討し、組織の発展に寄与することを目的として「JCHO認定キャリアアドバイザー（以下JCAという）制度」が創設となりました。当院においても、2025年度より活動を開始しています。

対象者：当院のすべての看護職員

相談内容：キャリアに関する相談、
時短勤務など働き方に関する相談など



このバッジが目印です
いつでも、ご相談ください



〈アドバイザー〉

副看護部長 鬼束ひとみ
教育担当師長 前田 恵美

第57回熊本県医学検査学会 『未来に繋ぐ ～人・地域・検査室～』

令和7年6月8日（日）に第57回熊本県医学検査学会を人吉市カルチャーパレスにて開催しました。この学会は熊本県における臨床検査の向上発展を目的に年1回定期的に開催され、今回は人吉球磨地区の臨床検査技師が担当しました。

人吉球磨は令和2年の豪雨災害の影響を受け、少子高齢化に歯止めがかからない地域です。それでも医療を必要とする方々のために私達が携わっている臨床検査技術を若手技師へ繋げる使命があると考え、今学会のテーマを『未来に繋ぐ ～人・地域・検査室～』としました。院内への検査結果の提供に留まらず、検査のプロフェッショナルとして地域の方々に求められる検査室作り、未来の検査室を担う人材育成の一助となるような企画を目指し、検査室から他部門へ、そして病院間の連携にデジタル医療は欠かせない要素であると考え、水俣市立総合医療センター 診療部長の長井 洋平先生に特別講演「医療人として地域に尽くす～DXから切り拓くプロフェッショナルの形～」をご講演いただきました。また症例報告、検査試薬および機器検討、チーム医療における検査技師の役割、若手技師への教育など31演題の学術発表があり、新たな知見を得ることができました。これを契機に人吉球磨の技師として、さらに地域医療に貢献していきたいと考えています。



223名の参加者のなか大盛況で終える

臨床検査部 臨床検査技師長 永井香代子

人吉医療センター災害実動訓練 & フェスティバルのご案内

2025年9月28日（日）人吉医療センター災害実動訓練を行います。当日は正面玄関、本館1～2階を主に使用するため、入院中および来院の皆様には騒音等大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。また、訓練後には当院敷地内において人吉医療センター病院フェスティバルを開催します。



ご来場お待ちしております



人吉医療センター

理念

145年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重します

診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

臨床研修理念

医師としての人格を涵養し、医学・医療の社会的役割を認識しつつ、臨床に必要な基本的診療能力を習得し、全人医療を提供できる医師を目指します。

臨床研修の 基本方針

1. 人間性豊かな医療人の育成
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人の育成
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人の育成
4. チーム医療のできる医療人の育成

5. 生涯学習をする医療人の育成
6. 地域医療に貢献する医療人の育成
7. 公的中核病院としての責務を自覚する医療人の育成

